「過ぎさりし村の生活」を記録

二月二十日自費出版の予定

近年、横越村も開発や都市化の様相が急テンポに進み、のどかな農村風景や村に点在している文化遺産は、破壊の危機にさらされている。

また、時代とともに生まれつくりあげられた生活様式も時代の流れとともにその姿を消したものも少なくない。

こうした事態を重視して公民館では、昭和四十八年度から本格的に文化財調査をはじめる計画をたてている。

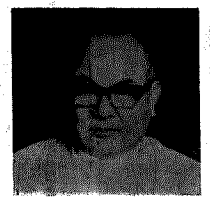
ところが、個人で郷土民俗史の研究をし、このほど、その研究成果を一冊の本にまとめ、自費で出版しょうとしている人がいる。

この人は、曽我広見さんで昨年三月、横越中学校教諭を定年退職されてからもっぱら郷土民俗史の研究をすすめている。

出版の本は「横越村の民俗――過ぎさりし村の生活――」で母なる川、阿賀の川を中心に栄えた横越村の風土、その中で営まれてきた、祖先の衣食住の知恵をはじめ、農村の生活実態、伝説や物語など克明に解明している。

曽我さんは、出版の動機について「小林存先生纒さんの横越村誌（昭和二十七年発行）で明らかにされなかった村の祖先の過ぎさりし生態がどういうものであったか。次の世代が更に科学調査を積み重ねて真の姿を明らかにする際の踏み台として、少しでも過去の真実に近づけたなら……」と語っている。

この本の発売は、二月二十日ころの予定であるが、ご希望の方は、公民館でも受けつけていますので申し込みください。



（著者曽我広見氏）

乳児死亡と結核発病はゼロ

――昭和47年の人口動態と死亡原因――

過去一ケ年をふり返ってみて、横越村の衛生状況は、例年にみられない明るい昭和四十七年だったようです。

特に、この一年は、一才未満の乳児死亡が一件もなかったことと、結核と診断されたものが一人もなかったことです。

このことは、村民の皆さんが健康に注意し、家族みんなが「健康で明るい生活を」という心がけのたまものと思います。

横越村の人口動態は、ここ数年、人口の減少は鈍化しているものの、近く八、〇〇〇人を割ることが予想される。この原因として出生、死亡の関係よりもむしろ、転入、転出の関係が大きいといえます。

しかし、ここ数年の後に、住宅団地の整備がされ、人口増の様相になってきます。

ところで、本村の高令者人口も一割強と増えてきましたが、高令者にとって一番大切なことは、健康管理ではないかと思われます。

本村の死亡原因をみますと、脳血管疾患（脳溢血）が二四名で全体の三三%をしめ、それが七十才代、八十才代の高令者に多い。続いて、悪性新生物（癌）の一三名、老衰、心疾患（心臓病）のそれぞれ十名となっています。

めざましい医学の進歩によって難病の治療は容易に行われていますが、新しい病気も増えてきています。

食生活や健康管理に十分気をつけるとともに、村で行われているさまざまな検診を積極的にうけ、早期発見、早期治療を行って、お互いに健康で豊かな生活をおくりましょう。

人口動態の推移

	人口 男	人口 女	人口 計	出生	児生 未熟出	死亡	乳児死亡	産死	期産 周死亡	婚姻
45年	4,021	4,203	8,224	108	10	96	3	11	3	53
46年	3,967	4,169	8,136	106	4	62	1	9	3	63
47年	3,900	4,109	8,009	111	5	72	0	6	0	52

横越村の民俗

―過ぎさりし村の生活―

曽我広見著
A5判・布装幀・二一〇頁・函入
第一印刷株式会社
頒価一、〇〇〇円（実費）
但し、村外の方は一、五〇〇円以上

主な内容

一、はじめに
二、村の成立と経過
三、村の衣
四、村の食
五、村の住
六、村の冠婚葬祭
七、村の言葉（方言）
八、村の農事雑話
九、村の若者の生態
十、村の昔の面影
十一、村の芸能と娯楽
十二、村の伝説・物語
十三、むすび

交通安全入選作文

歩行者・自転車の専用道路を！

――今こそ交通戦争をなくそう――

横越中学校三年二組　田中せつ子

今の日本で、毎日絶えることなく人々を苦しめていることといったら、交通事故であろう。いや日本だけではない。他国でも毎日起こる交通戦争に大変大きな怒りを持っているに違いない。誰かが、どこかで、はかなくこの世を去り、また無残な姿に変わり果てているのだろう。いつ、自分に襲ってくるかわからない交通事故ほど、恐ろしいものはないのではないか。

せっかく、この世に生を受けても、たった一瞬の事故のために、命を断ってしまうことはあまりにも悲しく切ないものである。ましてや、家族を養っている父親や母親がなくなってしまったのでは残された遺族の悲しみは、私のように幸いにも経験のない者には、理解できないほど大きなものだと思う。

今日の日本の道路という道路は車でうずまっている。うるさい雑音や、身体に良くない排気ガスを残して、平気で通り過ぎて行く車。人の通れる所といったら、道路の片隅にある狭い歩道と、ところどころに設置されている歩道橋くらいのものだ。こんなことを思うたびに、道路を占領している車が恨めしく、もっと人間が、ゆうゆうと歩けないものかと腹が立つ。特に、雨の降っている時などは、歩行者に泥水をかけても一言も詫びないものをなぜ、多少なりとも、スピードを落せぬものか！。

しかし、これほど車の悪口を言っている私でも、車を利用している。確かに車は便利で助かるが、交通事故の根本的な原因は、運転手によるものだと思う。まじめに交通規則を守って運転していればいいものを、無理にスピードを出して楽しんだり、酔っぱらい運転やジグザグ運転をしているのでは、交通事故が起きても不思議ではない。

また、これは私達歩行者にも言えることだ。左右の確認もしないで飛び出したり、酔っぱらって道のど真ん中を歩いたりしては、運転手側も大変な迷惑であろう。

では、このような交通事故を防ぐにはどんな対策を立てたら良いのか。道路を利用しているものなら特に真剣に考えなければいけない問題だ。

ただ交通事故のあったことだけをニュースや新聞に知らせているのでは、交通事故の犠牲になった人達に申しわけないと思う。

まず、運転者や歩行者の自覚が大切なことは言うまでもないことである。しかし、運転者や歩行者の自覚を呼びかけるだけでは、現在の交通状況からいっても、おのずと限界もあるだろう。そこで私は主に施設設備の面から、次の三点を特に提案したい。

まず第一に、車専用の高速道路があるのだから、歩行者や、自転者専用の道路を作って、車道と切り離すべきである。

次に、それだけでは車の衝突事故が増加する可能性もあるので、ほとんどの道路を一方交通にするか、左右を分離するとかして、道路をなるべく余裕を持って走れるようにしたらと思う。第三に、カーブごとにテレビを備え、前方の様子を知らせてくれるような設備があったら、少しは事故が減少するのではないだろうか。

これらは私個人の意見にすぎないが、これよりもっと適切な処置、あるいはもっといろいろな処置を今こそ思い切ってとらなければわが日本、大きくいえば世界中が破滅する日もそう遠くはないような気がする。

私達の住む日本を、地球を守るために、もっと交通問題を重視し、少しでもなくすために努力し、協力し合い、一人一人が、村が、そして国が、今こそ交通戦争をなくそうではないか！

2月保健衛生業務予定

月日	曜	時間	実施内容	該当者（地区名）	場所
2月9日	金	午后1.30～2.30	百日せき、ジフテリア、破傷風予防接種（1回目）	S46.7.1～46.10.30生れ S47.7.1～47.10.30生れ	横越村公民館
12日	月	午前9.30～10.30	健康相談	血圧の高い方（横上）	恒心会倶楽部
〃	月	午后1.30～2.30	〃	〃（横下）	忠誠会倶楽部
13日	火	午前9.30～10.30	〃	〃（沢海）	稚蚕飼育所
〃	火	午后1.30～2.30	〃	〃（小杉）	小杉小学校
14日	水	午前9.30～10.30	〃	〃（木津）	中央会館
〃	水	午后1.30～2.30	〃	〃（二本木）	公会堂
15日	木	午前9.30～10.30	〃	〃（藤駒）	藤駒出張所
〃	木	午后1.30～2.30	〃	〃（川根谷内）	上集荷所
16日	金	午前9.30～10.30	〃	〃（横中）	横越村公民館
〃	金	午后1.30	乳児検診	47年2月7月11月生れ	〃
20日	火	午前9.30～3.00	母親学級	妊娠届のあったもので未受講者	〃
3月2日	金	午后1.30～2.30	百日せき、ジフテリア、破傷風予防接種（2回目）	S47.7.1～47.10.30生れ	〃